謹 んで新年のご 祝詞を申 一げます

代町長 秋 山 利 作

松

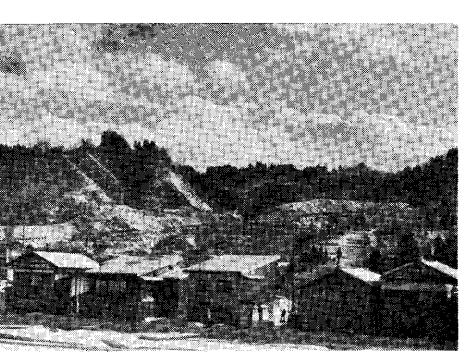


ようお願い中上げます。 ご協力を感謝し、本年も一層のお力添えを賜ります年中町内各種事業の実施にあたり、絶大なるご指導和のうちに発展し躍進の年でありますとともに、昨和かしい昭和五○年の新春を迎え、新しい年が平

殊に本年から国にあって引続きるにおいて、更に に係る駅舎を中心とした諸事業、 生活安定を図 全国町村の悩みでありますが て引続き過疎対策、 町にも大きく波及することと思わ に三木新内閣が発足、 更に総需要抑制等に (県、 ご存じのように「 の発展的な事業として、 い社会情勢の中で幕 道改良、 学校合理化対策、所以、北越北線推進事業 による大巾 高騰物価の動乱の社清潔と対話」の政治 策を重点課題とし、 こうした緊急事態 れます。この緊縮

します。ここに所感の一端を述べて年頭のごあいさつといた

「少雪でよい新春を迎えた松代町本町の風景



昭和50年1月10日発行

第 1 8 2 号 東頸城郡松代町公民館 館長 関 谷 昭 平

電話松代 301 番印刷•松代印刷所

会員

派

会

該

員

職員は49.4.1から平均30・36%引上

給与アツプ率

23.18%

25.00

26.35

28.67

|千三一九| 補正予算 万八千四に六千四に六千四に六千四 -円とす - 四七四 - 四七四

G(滅)三二〇万円八千円 へ県単農 248年度繰越金二三 <u>五</u> 県越九 万 道干干

特

別

教

川

円 △ 別 万 二 千 三 千 三

にに給はでが与 改関与、す議改

の第

次員特四そ18職催26の別号のの員さ日

のよれ、で概義のれ、では、

されまし 教育長の 発気を議員

議決された 一議会第4日 昭和49年

· 会日 一がか

间

五万五

· 月支給を、 を6月支給を、 記のほか、)

手門

(旧三万五千

旧四万円

か200 旧の

三千 户 Ŀ 49 10 1 通 用

給与アップ率

23.64%

27.50

28.57

名

副議長

写 Z 告 录 の増額にもと 通勤手当・ 改正と期末手が強動手当・超動を 設で技芸のでは、 改正 ・1 から適 養 30 49 手·· 50 **当**36 4 手 . % 1 か宿の当住の1

・休日給の水の中で内容の中で内容の中で内容の中で内容の中で内容の中で内容の中で大きる。 主なもりから八日 ものは次パ号まで

億二 þ 0

名

長

役

収入役

保費 険四特千 別七 会七計七

円とす

四千円

正 万 四 千 万

算色平白云

金繰りる。

● 特 会計 農業共済事業補 正予算 万四 五千

七千収第別九円入2会 2号 追 支 加 出 ヘ万追 事業 とも 東南 とする 予に 益二四二万七 でするもの。

(別表) 土 均	电负息事	業 概 要 —————	
械正向農と地 の・上業しこ	立主水産な団体田性い体	生な水部県 産い田で単 大性、地あ農	H A
効揚を生てり 率水は産間防	と地の農営	水の農帯る業	的
的排か性場止 利水ると整事	たの上生業 機水を産で	の向業に溜基 循上生合池盤	
用完 労備業 備 働をの	械のは性圃 化循か及場	環を産った整 式は性たつ備	効
で地生行 関 農辷産な連	体環るび整 系利 労備	利か及工い事 用るび事て業	用
業り性い工 機防の、事	の用 働を 確を天生行	方 労を、の 式 働行天一	等
17.40 %	14.20 宏 〇		益実
1 1	· - 野 至	4 10 峠 (峠 ha 戸 地	戸施 数地
ha 戸 尻 生 地 内	ha 地	· Ma F · D	面域 積受
		揚 漏 道	基基
区 13 画 •	区 11 画・	水 、水 路 工 一工 五舗	本
整 8 理 ha	整 4 理 ha	事(事)装	
21; nu		式 m² m	画
全右	完 着 51 了 50 手	完年 49 着成子	エ
 	年予年 度 定	予内 · 正 定	期
九	六		事
五〇二	! () 九		業
一百百			費

教 収 助 」育円月入円月役 類役 気

和二二万円

旧

六万七千

八万四千円

(旧

四万

二二万円

间

七万六千

七万

_

干

田二二万

支出 \triangle 人 |件費二三六万七千

の の 過 地の 域第 振九 興号 計は 画昭 を和 議 50 決 L 54た年度

移産

が稲

どに

遅見 1

いた。 大被害の

の年となってしま

い

想植の

スほ稀

トれる

させ

ダ

なり、上町全体で

たで九、

七に

三件 5

(和共済:

とは

円 金

水稲

被害農

一内訳は別な家に支払

表わ

の祖ま

りです。

(農業共済係

十二月二日付で農協を通じ

昭

49

年

産

稲

害

状

況

児 、越地で 変更につ 議町 (更) 大事の処理 更に 関 第に の 委 年田 る 4 原約地県一東合新合。務 町の方町部頸規潟規11の の日の 広 約地村変公村改城約県約号の方職更共入正ごの上の、 委託 城決ら

とお て り 0 決であ ŋ 、地 要良 は事 別業 表に のつ

議第十八号は、新祖 (旧二〇〇万円)に改正 (田二〇〇万円)に改正 (世二〇〇万円)に改正 (世二〇〇万円)に改正 (世元) 説明省略、職員恩給の 重の処で、一号は、一分学、 Ê を及民 する 組 三び年 合用も〇 処 議解する万に紙の一次に紙

面積

2,832

231

238

被害名

首イモチ

冷

水

7

15

Ł

農な

すばか

そ

の

K

とら

7 現

< 0)

お在

被害30%以上共済金支払内訳表

共済金

5,764,800

412,350

648,300

2,876,550

5,184 9,702 000

ダブルパンチで凶作

域にに 降雨 `をよ るチ

チ移葉し深続た干植で多豪に行イた刻出地害期あ難雪 あ難雪49

割合	備	考
59.4	このうち移 もの 1. 4 78	植不能による a 3,003,000円
4.3		
6.7		
29.6		
100.0		

に見 会

ブチ

11月29日 しぶみ 枯水居し 句

他石先生選

投光器に夜間作業の公民館庭の枯芝の店 の広 息く 白た しち く淡

浦の穂日 のの 林立こ こも休 耕芝田ぬ 9 4. 水

柿凶 5 作 れに て言 深山 なた 雪川 ĩ

谷

内

る

掘ると大長靴 を は Ų. て 枯来公 水

出稼 0 Ш は L < n て 向 風

短白 の寺のきざはし石 紅

茶

花

大寺の 人夫十人冬支 度 立

雪の下 大根起す土 なく 石

稲 架空 月 31 い日 て今日 克雪セ ょ ン り岳 タ 1 0 日 0 見

日山ゆ |焼田に 破ぬ れる 案紅 子葉 のの そはし ŧ ŧ ŋ 7 明にぬ

か日 め々 虫に の小 窓査 動て かつ ずつ 小人 序る る

心急きなが 5 朝 顔 を見て狩 てた 9 も

紅

石

銀杏散る二十余体

Ø)

2月1日 業セ ンサ 行 な ス ゎ Δĭ れ

ま

営 と業りの農がのま

が、おいとなった。

聞点せるに

つはわ

て 宅 の す

おけ

で

たいて

調農査業 ン 言 ン べわ て れス のるは、 家を対 ので五 農業の 象年国

皆

おろお 私営のこれを で と を 句 ろいい しろし くいて

査 (善などを行っな計画をたっ をしてたり り K

解 協

果は

でにれ されらあれているようお 対に税を ŋ いいたしま あ 金

り TS

えん資

豊か な農業 诊 す セ 7

ス

庭石

0

澗

れて月

0)

あ

ŋ

にけ

ģ

がん、の危険信号

、男女別がんの順位

女	男	
胃	胃	第
か	ħ;	
ん	ん	位
子宮がん	肺 が ん	第二位
肝臓がん	肝臓がん	第三位

②肺がん、喉頭がん はきけ、はきけ、はく、好みが変け、はきけ、はく、好みが変わる、やせる、しこりがある 痛み、食欲がなくなる、胸や 痛がんの種類別の症状

最声せき が いけ合 である。 と、 を での若いほど、 長切りの若いほど、 長切りでいる。 喫れる、 疲れや で 関制 関連 関連 関連 関がまじる

おりもの、

食道が 血のまじった液がでる 、ひきつれる、乳こりがある、乳

がある。のみこむとき、 である つかえること

大腸が 直腸がん

②両手をあげて同じこ とをみます。

(1)

両手を下げたまま左 カガミの前に立って

きつれがないかどう形とくにくほみやひれの乳房の大きさと

かを調べる

す。 注意深く おいて、 一

注意深く さぐ りままいて、てのひらであれ、乳房をいくを入れ、乳房をいくを入れ、乳房をいくなん内側にずらして

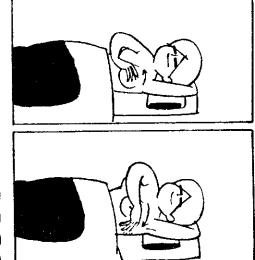
便に 血がまじ

⑦舌がん、 や皮膚に 層に治り皮膚が ĸん く し、 滑傷が

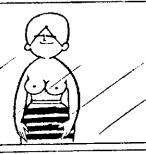
ינת Ą 悪か 脱が っ り 前 Щ 立 办

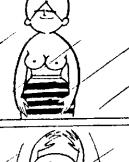
※ がなに ※ こ ては、ためは無にというから、ためは無にというから、無いのよう ては、年一回検診を受けて安から、特に胃、子宮などにつんは無症状のうちに芽ばえまい事を確めておきましよう。 診な て症 よりの ておきましよ でち

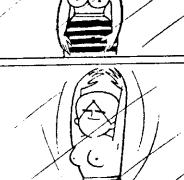
④同じことを内側から ます。右の乳房につ ワキの下までさぐり います。このときは 外側に向かって行な いても行ないます。



乳がんの自已検査法







と納めるようこころがけてた と納めるようこころがけてた と納めるようこころがけてた とれめるようこころがけてた とれがのるようこころがけてた しまうと金額がかさみ納め しまうと金額がかさみ納め 引上げることとされ重い負担とならない りておきま にキチン のて(未納) ます。

/二十歳と国民年金/

されます しての権利が与えられ義務二十歳になるとその日から が成 課人

たった。 なわれれば費用の負担もそれに応 にて増額されることになります。 にて増額されることになります。 にで増額されることになります。 にの一月に、各年金ともおよれ、また、九月には物価上昇にとれる。 れ、また、九月には物価上昇にとれ、また、九月には物価上昇にとれて、

セ

積みが

一・九倍か

ております。 七倍も したが

たがって、モンでまかなわれています。でまかなわれています。、これを積立てて生じる利子ないまか負担する分には、の人険料と国が負担する分になった。

国民年金保険料

00

とすることに

して

段階的に八者に急に一〇〇円

先

5

また今年

て資金を の義務 義務の 金は、 ひとつです。 しあ って老後の 国と国民が で 生活を 協力

れはいのを ば必た人う い年の た金問 年金などの いただけるものと思います。中金を身近なものとして理解の問題を考えれば、若い人に 7 会 民年金についなりません 二十歳か 孔や官 の配偶者、 けることの る人や、 らの られ 一金係へ電話なりたん の国民年金に加入しなけ歳から五十九歳までの人とのできる人、これらことのできる人、これらことのできる人、これらいの被用者年金制度に加入の被用者年金制度に加入 人の老後の生活や扶養 で しよう 両親やおとしよ で解して、

言などでおい方は、 殺闘き

あ な 0) 年 金 額 は

自分の年金額を計算

までにはい す年なたる毎 。金りしが月 金額 Ŧ た にい方も にい方も にい方も ・ 金の保険料をいたるの保険料をいたも多いとす。 その仕方を書いると思いま まお年納す知金め ŧ١ て見 のりはて

書いてみます。 学けるのがたてまえですので受けるのがたてまえですので受けるのがたてまえですのでー日以前の出生)は別として一日以前の出生)は別として一日以前の出生)は別として そ年、四 で納め を δ に保て本月

附加年金… 光 年金: (800 ,161=278, $200円\times300$ 200H × 3000月)× ,640円 且

=60,000円

説明

老令 つ い

から ら保険料 けた額 Ø かを 年納 车 金額た額に の月 で料 基礎八を納 礎 八 につでめ なりとなりたり

十才になる おいました けるのが と納めて 上がの 国の保数 800月 納年 **於料** です で三〇〇月 金) 〇月にし たてまえ て δ 合険 へで か す ら ま <u>ئ</u> ゎ てか年でけ イ多物めけし四かーのドウを年算かから金保 ドく価で年た十らカ基率まけをて保六自受料 制すがす金と九一月礎ですけをて保六自受料 で -}

> お米 とで た金 年金 不五十俵買える・ す。例えば現む。 まで引 をその ス 俵える 0 とすれ 在五十 支給 で支給されば、十 Į, 方 する 見合 闩 Ø 7. つはす

を納めると基礎年金額は四四 の額です。国民年金は二十才 の額です。国民年金は二十才 の額です。国民年金は二十才 の額です。国民年金は二十才 の額です。国民年金は二十才 の都です。国民年金は二十才 の都です。国民年金額で の都です。国民年金額で のがたえまえです。 を納めると基礎年金額で を納めると基礎年金額で を納めると基礎年金額で を納めると基礎年金額で を納めると基礎年金額に を納めると基礎年金額に の額です。 のの形に対象に のるととになります。 八二四円になります 四険すかから 五料かか合す

附加年金について

数です。 300円は、2 一ヵ月分の年は、2 保険料を納る保険料を納る Ø) δ た月 た 月

附加年金も二人できると を多く受けた 60,000円 九年 制度でいたが、年とっていたが、 一十才オス ○ 除十 Ŏをか ં કું されている方です。但し、か希望によっかるではなってから年金が、 なる十 りま年 才ま

夫婦で九万余の月給取り

ますと五四一、八二四基礎の老令年金と附加間保険料納めた場合の とになります。 月九万円余の年4 六四八円になります。夫婦二人で4 保険料納に二十才から になりますので二人で毎二人ですと一、八二四円になりますので二人で毎十十一、八二四円になりまからた場合の年金額は、から六十才までの四十年 金が H るこ

人口のうごき

(1月1日現在)

死亡

0

会と に次社 よせられば会福祉の なました。か松代町社会のために使 会福祉協い

> 金壱万円 されまれなり とり文化祭の、松代中学校: した。 0 中 かの ら寄 バガザ 付 슾 1

金五〇〇 〇円 西方嘉市(千年)さんから、拾ったおなを警察に届けておいため、あらわれないため、あらわれないため、あらわれないため、あらわれないため、あらわれないため、

戸 籍 の 窓 口 か ら

十二月受付分 (受付順

おめ ごけっこん でとう

宮沢 小堺安太郎・ 俊 市川花子 田中文子蓬平安えん 川花子 下山 大門

おたんじょう おめでとう

小野島信子父幸 ッ市 会沢 金年

鈴木 福島 尚徳父幸 一松代 剛 母父ュ喜 ミ 子好 松代きよし æ

おく やみ

死

Ė

牧室高山山佐田岡橋岸賀藤 がハル 一 ム 郡 メ ij 守ヤウ 八七七八七七八五三一才才才才才才 荕平新 小荒戸 小荒戸 峠仙荕

6 転出 25

世帯数 2,114(+-0)人口 男 4,186 (-3)女 4,220 (-6)8,406 (-9)

3 19

出生 転入

クリエー シヨン≫

年少女卓球大会終る

のため次になっため次によっている。

広報「まつだい」を 出稼先へ この広報を読み終ったら、 ふるさとのニュースを待ちわ びる、出稼先の夫や父や子へ 送ってあげてください。

中学校

なった次のでは、 なったのででである。 なったのででである。 なったでである。 なったでではない。 なったでではない。 なったではない。 なったではないではない。 なったではないではない。 なったではないない。 なったではない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 なったではないない。 ないないないない。 なったではないない。 なったではないないない。 なったではないないない。 なったではないない。 なったではない。 なったではないない。 なったではないないない。 なったではない。 なったではないないない。 なったではないない。 なったではないないない。 なったでないないない。 なったではなないないないない。 なったではないない

	- 1	=		勝	順
	二分団	三分団	分 団	点	位
<u>二</u>		3	5	2	1
一分団 三分団 一分団		_			
三分	2		5	1	2
<u> </u>	<u> </u>				
分分	0	0		0	3
前					. *

お子様の作品をごらんください

昭和50年書初作品を巡回中です

た出 なさ向 おい。 で

てください。なるときは学校へ問合せなお、念のためご覧に

\odot 小

19 16 12 9

奈野生平山山水

第五分団 参三二位位 二二分团 二二分团 二二分团 三分団 3 2 2 六 五 \equiv 分 分 分 分 団 団 4 寸 寸

困つています!

犬にふさがれて困るこがめだちます。

犬が不要になった。 不要になっ えだ が ださ

妊手術をしてください。 飼い犬に避妊手術を……子が必要で、衛生係へご連絡ください。

主は他人に迷惑をかけないよう

正しく犬を飼って下さい。